



Java Desktop System 2003 インストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-4377-10
2003 年 12 月

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PCGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Contains Macromedia Flash Player technology by Macromedia, Inc., Copyright© 1995-2002 Macromedia, Inc. All rights reserved. Macromedia, Flash and Macromedia Flash are trademarks or registered trademarks of Macromedia, Inc. in the United States and internationally.

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Java Desktop System 2003 Installation Guide*

Part No: 817-3689-10

Revision A



031105@6671



目次

はじめに 5

1 Java Desktop System 2003 のインストール手順 9

始める前に 9

システム要件 9

デュアルブート 10

CD からの Java Desktop System のインストール 11

パーティション分割時の推奨ガイドライン 16

パーティションのサイズ変更 16

カスタムパーティションテーブルの作成 17

はじめに

このマニュアルでは、コンパクトディスク (CD) から PC 上に Java™ Desktop System 2003 をインストールする方法を説明します。ネットワークインストールや SLEC オペレーティングシステムからのインストールなど、他のインストール方法については説明していません。

関連マニュアル

次に、このマニュアルに関連するマニュアルを示します。

- 『Java Desktop System クイックスタート・ユーザーズガイド』
- 『Java Desktop System 2003 ご使用にあたって』

参考マニュアル

次のマニュアルは、このマニュアルの参考になるマニュアルを示します。

- 『GNOME 2.2 Desktop Accessibility Guide』
- 『GNOME 2.2 システム管理 (Linux 版)』
- 『GNOME 2.2 ユーザーズガイド (Linux 版)』
- 『StarSuite 7 Office Suite インストールの手引き』
- 『StarSuite 7 Office Suite ユーザーズガイド』
- 『Ximian Evolution 1.4 ユーザーズガイド Sun Microsystems Edition』

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、http://docs.sun.com です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。
- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

第 1 章

Java Desktop System 2003 のインストール手順

この章では、Java Desktop System 2003 のインストール手順と以下の情報について説明します。

- 9 ページの「始める前に」
- 11 ページの「CD からの Java Desktop System のインストール」
- 16 ページの「パーティション分割時の推奨ガイドライン」
- 17 ページの「カスタムパーティションテーブルの作成」

始める前に

この節では、Java Desktop System のインストールの前に行う作業を説明します。

システム要件

完全なインストールを行うには、以下のものがが必要です。

- 以下の最小システム要件を満たすパーソナルコンピュータ (PC)

表 1-1 Java Desktop System のシステム要件

	推奨	最小
プロセッサ	600 MHz 以上の Pentium III と互換のプロセッサ	266 MHz 以上の Pentium II と互換のプロセッサ
ハードディスク	6G バイト	4G バイト
RAM	256M バイト	128M バイト

表 1-1 Java Desktop System のシステム要件 (続き)

	推奨	最小
ディスプレイ解像度	1024 x 768	800 x 600

PC はインストール CD から直接起動できる必要があります。CD からの起動プロセスは、システムによって異なります。問題が発生した場合は、ご使用の PC のマニュアルを参照してください。

インストールには、PC に関する次の情報が必要です。

- ユーザー名
- ネットワーク構成情報
- ディスクパーティション情報
- ISP 構成情報

インストールには、30 分以上かかります。

デュアルブート

Java Desktop System のインストール時に PC 上にデュアルブートを設定することができます。

出荷時のほとんどの Windows インストールはハードディスク上の容量をすべて占有しているため、Linux 用の空き容量は残されていません。そのため、Java Desktop System インストール構成プログラムは Linux オペレーティングシステムをインストールするためのパーティションを作成します。

各オペレーティングシステムは独自のファイルシステムを持っており、別のオペレーティングシステムがそのファイルシステムを読み取れないことがよくあります。Java Desktop System インストール構成プログラムは Windows が使用する FAT32 ファイルシステムを読み取ることができます。

Linux はそれ自身のパーティションを必要とし、また Windows はパーティションのサイズを変更することができないため、インストール構成プログラムはハードディスクを調べ、適切なパーティション設定を提案します。

この場合、インストールを続行する前に、提案したパーティション設定を採用するか、提案に基づいて既存のパーティションのサイズを変更するかを選択するための画面が表示されます。

注 – インストールされている Windows が NTFS ファイルシステムをサポートする場合、独自のパーティションを作成することができます。Java Desktop System インストール構成プログラムは、パーティションのサイズの変更を許可しないため、既存のパーティションの置換を提案します。ただし、パーティションのサイズを変更する他社製のアプリケーションを使用すると、現在の Windows パーティションをそのまま残すことができます。

デュアルブートシステムを作成する場合は、次の点を考慮してください。

- CD 上に保持したいファイルは、すべてバックアップする。
- インストールされている Windows が FAT 32 ファイルシステムを採用しているかどうかを確認する。

CD からの Java Desktop System のインストール

この節では、Java Desktop System インストールパッケージに含まれる CD を使って、Java Desktop System をインストールする方法を説明します。

次の手順を実行します。

1. CD 1 を CD ドライブに挿入します。
システムが起動し、以下のオプションが表示されます。
 - **Boot from Hard disk** (ハードディスクから起動)
 - **Installation** (インストール)
 - **Installation — ACPI Disabled** (インストール — ACPI 無効)
 - **Installation — Safe Settings** (インストール — 安全設定)
 - **Manual Installation** (手動インストール)
 - **Rescue System** (復旧システム)
 - **Memory Test** (メモリーテスト)
2. 新しくインストールするには、矢印キーを使用して「**Installation** (インストール)」オプションを強調表示し、Enter キーを押します。
3. 「**Binary Code License Agreement** (バイナリコード・ライセンス条項)」ダイアログが表示されます。「Accept (同意する)」をクリックして、インストールを続けます。「Accept (同意する)」をクリックしないと、インストールを続けることはできません。
4. 「**Language Selection** (言語選択)」ダイアログから言語を選択し、「Accept (了解)」をクリックします。

5. インストール構成プログラムが現在のシステムを分析します。現在のシステムに既存の Linux システムがインストールされていない場合、構成プログラムは手順 8 の例にあるように、ハードウェアのインストール設定を提示します。

ただし、構成プログラムが Linux システムがインストールされていることを認識すると、次のオプションを選択する画面が表示されます。

■ 「**New installation** (新規にインストールする)」

使用中のマシン上に Linux システムが存在しない場合や、既存の Linux システムを完全に置き換える場合は、このオプションを選択します。

■ 「**Update an existing system** (既存のシステムの更新)」

すでにインストールされている Linux システムをアップグレードする場合は、このオプションを選択します。このオプションは、既存のシステム構成の設定を可能な限り保持します。

■ 「**Boot installed system** (インストールしたシステムの起動)」

Linux システムがハードディスク内にあるが、再起動できない場合には、このオプションを選択します。このオプションを使用して、手作業で再起動の問題を解決する事ができます。

■ 「**Abort Installation** (インストールを中止する)」

インストールを中止するには、このオプションを選択します。

6. 「**New installation** (新規にインストールする)」を選択し、「了解」をクリックします。

7. 構成プログラムは次の「**Software Options** (ソフトウェアオプション)」を提示します。

「**Default system with StarSuite - for Japan, China, Korea and Taiwan only** (デフォルトシステムに **StarSuite** をインストール - 日本、中国、韓国および台湾専用)」

「**Default system with StarOffice - for all other countries** (デフォルトシステムで **StarOffice** をインストール - その他の国用)」

適切なオプションを選択し、「Accept (了解)」をクリックします。

8. 次に、システムのインストール設定が表示されます。

たとえば、

■ モード — 新しくインストールする

■ キーボードレイアウト — 日本語

■ マウス — PS/2 マウス (Aux-port)

■ パーティション — パーティションをフォーマットする : /dev/hda6 9.3 GB、(/, reiser) および パーティションをフォーマットする : /dev/hda5 196 MB、(swap)

デフォルト設定を変更するために「**Partitioning** (パーティション)」をクリックすると、構成プログラムはハードディスクを検査し、次のオプションを示します。

■ 「**Accept proposal as-is** (提案をそのまま受け入れる)」

- 「**Base partition setup on this proposal** (提案を変更して基本的なパーティションの設定をする)」
- 「**Create custom partition setup** (カスタム・パーティション設定をする)」

「**Accept Proposal as is** (提案をそのまま受け入れる)」を選択し、「次へ」をクリックします。

注 - パーティション分割は、インストールプロセスの重要な一部分です。詳細は、16 ページの「パーティション分割時の推奨ガイドライン」を参照してください。

■ ソフトウェア

- 「**Default system with StarSuite - for Japan, China, Korea and Taiwan** (デフォルトシステムに **StarSuite** をインストール - 日本、中国、韓国および台湾専用)」
- 「**GNOME system** (GNOME システム)」
- 「**StarSuite**」
- 「**Help and Support Documentation** (ヘルプおよびサポートに関するドキュメント)」
- 「**Graphical Base System** (グラフィック基本システム)」

「**Software** (ソフトウェア)」をクリックすると、構成プログラムは次のオプションを示します。

「**Default system with StarSuite - for Japan, China, Korea and Taiwan only** (デフォルトシステムに **StarSuite** をインストール - 日本、中国、韓国および台湾専用)」

「**Default system with StarOffice - for all other countries** (デフォルトシステムで **StarOffice** をインストール - その他の国用)」

適切なオプションを選択して、「Accept (了解)」をクリックします。

- ブートローダー — 1. IDE 9.54 GB, dev/hda から起動する。

「**Booting** (ブートローダー)」をクリックすると、構成プログラムは次のオプションを示します。

- 「**GRUB** を **/dev/hda** のマスターブートレコードにインストール」
- 「起動用フロッピーディスクの作成」
- 「**GRUB** を使用しません (他のブートマネージャーが必要です)」
- **GRUB** を他のパーティションにインストールする : **(P) /dev/hda**

適切なオプションを選択して、「Accept (了解)」をクリックします。

あるいは、構成プログラムが示す起動オプションをそのまま使用します。

- 時間帯 —アジア / 東京
- 言語 — 日本語

注 – この段階では、次のようにインストール作業を進めてください。

- インストールを続行するには、「Accept (了解)」をクリックします。
 - インストールを続行する前にインストール設定を変更するには、「Change (変更)」をクリックします。
 - インストールを中止するには、「Abort Installation (インストールを中止する)」をクリックします。
-

9. 「Accept (了解)」をクリックして、インストールを続けます。

構成プログラムはメッセージを表示して、インストールが前のダイアログで設定した設定に従って実行されることを知らせます。

10. インストールとすべての選択を確定するには、「Yes, install (はい、インストールします)」をクリックします。

ハードディスクの準備が行われていることを示すメッセージが表示されます。インストールが始まると、以下の3つのウィンドウ区画を持つ画面が表示されます。

- **Current Package (現在のパッケージ)**

インストールパッケージの名前、説明、サイズと共に、インストール済み部分のパーセントを示すステータスバーを表示します。

- **Installation (インストール)**

CDからのダウンロードが終了した割合 (%) とダウンロード完了までの予想時間を表示します。

- **Installation Log (Extract) (インストールログ (抜粋))**

現在システムにインストール中のパッケージすべてに関する実行状況を表示します。

CD 1 からパッケージがダウンロードされた後、基本インストールが終了し、システムが再起動されることを示す画面が表示されます。

システムが再起動した後、CD 2 を挿入するよう求めるダイアログが表示されます。

11. CD 2 を挿入し、「了解」をクリックします。

CD 2 のパッケージをインストールするとき、CD 3 を挿入するよう求めるダイアログが表示されます。

12. CD 3 を挿入し、「了解」をクリックします。

CD 3 からすべてのパッケージが正常にインストールされると、システム管理者 root 用のパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

注 - 必要なときに参照できるよう、パスワードを控えていてください。

13. root のパスワードを入力します。
14. 確認のためパスワードを再度入力して、「Next (次へ)」をクリックします。

次に、新規ユーザーの追加を求めるプロンプトが表示されます。このオプションはネットワーク環境では任意入力です。
15. 追加するユーザーの「**First name, Last name, User login** (名前 (ファーストネーム)、姓、ユーザ名)」および「パスワード」を入力し、「次へ」をクリックします。入力した内容で、ユーザーアカウントが新たに作成されます。

構成プログラムは、デスクトップの設定を以下のように初期化します。

 - 「テキスト・モードのみ (グラフィック・デスクトップ使用不可)」
 - 「グラフィック・デスクトップ環境」
16. 「グラフィック・デスクトップ環境」を選択し、「Accept (了解)」をクリックします。

スタンドアロンの、ネットワークに接続されていないインストールの場合、構成プログラムはローカルのプリンタを検出しようとします。
17. ローカルプリンタがシステムに接続されている場合、「Yes (はい)」をクリックします。接続されていない場合、「Skip detection (検出をスキップする)」をクリックします。

構成プログラムはシステム構成を書き込み、次のハードウェアデバイスのインストール設定を表示します。

 - 「**Network interfaces** (ネットワーク・インターフェイス)」
 - 「**Printers** (プリンター)」
 - 「**Modems** (モデム)」
 - 「**ISDN adapters (ISDN アダプター)**」
 - 「**Sound** (サウンド)」
18. 「**Installation Settings** (インストールの設定)」を変更するには、「Change (変更)」をクリックします。設定をそのまま使用する場合は、「次へ」をクリックします。

設定が正常に保存されたというメッセージが表示され、システムが自動的に再起動されます。
19. CD 3 を取り出します。
20. ログイン画面で、新規ユーザーに設定したユーザー名とパスワードでログインを行います。

これで、Java Desktop System を使用する準備が整いました。

以下のデスクトップオブジェクトが表示されます。

- このコンピュータ
- ドキュメント

- ネットワークプレイス
- ごみ箱
- Java™ Desktop System について
- ボトムエッジパネル

デスクトップの使用を始めるにあたって参考情報が必要な場合は、『Java Desktop System 2003 クイックスタート・ユーザズガイド』を参照してください。

パーティション分割時の推奨ガイドライン

ディスクのパーティション分割に関する推奨ガイドラインは、以下の表を参照してください。

表 1-2 パーティション分割のガイドライン

パーティション	サイズ	種類	説明
/	5G バイト。最小 3G バイト	Primary (プライマリ)	Java Desktop System オペレーティングシステム全体が、1 つのパーティションにインストールされます。ディスクをパーティションで再分割しなくても、Java Desktop System の更新リリースをインストールできる十分なスペースが確保されます。
スワップ	RAM のサイズの倍。最小 128M バイト	Extended (拡張)	必要に応じて、スワップパーティションのサイズを増減できます。

パーティションのサイズ変更

この場合、インストールを続行する前に、提案したパーティション設定を採用するか、提案に基づいて既存のパーティションのサイズを変更するかを選択するための画面が表示されます。

パーティションのサイズを変更する方法は次のとおりです。

1. 「**Installation Settings** (インストールの設定)」ダイアログから、「**Partitioning** (パーティション)」を選択し、「**Base partition setup on this proposal** (提案を変更して基本的なパーティションの設定をする)」オプションを選択し、それから「次へ」をクリックします。

2. サイズを変更したいパーティションを強調表示して、「Resize (サイズを変更する)」をクリックします。
3. スライダを使って、Windows パーティションと Linux パーティションに割り当てる容量を設定し、「確認」をクリックします。

注 - Linux 用の最小の容量は 3024M バイトです。

4. 「次へ」をクリックして、パーティションテーブルを保存し、「**Installation Settings** (インストールの設定)」画面に戻ります。

カスタムパーティションテーブルの作成

構成プログラムが推奨したパーティションテーブルが Java Desktop System インストールの要件に合わない場合、カスタムパーティションテーブルを作成する必要があります。

次の手順は、カスタムパーティションテーブルの作成方法の概要を示します。

注 - この手順を実行すると、既存の Windows パーティションが上書きされます。保存する必要があるファイルは、すべてバックアップしてください。

1. 「**Installation Settings** (インストールの設定)」ダイアログから「**Partitioning** (パーティション)」を選択し、「**Create custom partition** (カスタム・パーティション設定をする)」オプションを選択し、「次へ」をクリックします。
2. 「**Custom partitioning, for experts** (カスタム・パーティション - プロ用)」オプションを選択し、次に「次へ」をクリックして「**Expert Partitioner** (上級者向けのパーティション設定)」ダイアログを表示します。
3. アプリケーションをインストールするディスクを指すデバイス、たとえば `/dev/hda` を選択し、「Delete (削除)」をクリックしてそのディスク上のすべてのパーティションを削除します。
4. 「Create (作成)」をクリックして、新しいパーティションを作成し、「**Primary** (プライマリ)」オプションを選択します。
5. ポップアップウィンドウで、「**Start Cylinder** (開始シリンダ)」を 0 に、「**End Cylinder** (最後のシリンダ)」を + 5G バイトに、「**Mount Point** (マウントポイント)」を / に設定します。
6. 「Create (作成)」をクリックして、新しいパーティションを作成し、「**Extended** (拡張)」オプションを選択します。

ポップアップウィンドウ内の値は、すべて正しい設定でなければなりません。たとえば、「**Start Cylinder (開始シリンダ)**」の値は「hda1」の「**End Cylinder (最後のシリンダ)**」より 1 多くなければなりません。「**End Cylinder (最後のシリンダ)**」は /dev/hda の「**End Cylinder (最後のシリンダ)**」と同じ値にすることができます。

ディスクの残った部分を含むように拡張パーティションを作成すると、他のすべてのパーティションは、その拡張パーティションの中に作成されます。

7. 「**Create (作成)**」をクリックして、新しいパーティションを作成します。
8. 「**Format (フォーマットする)**」オプションの下プルダウンメニューから「**Swap**」を選択します。
9. 「**End (最後)**」フィールドに「+」構文を使用して、スワップパーティションのサイズを指定します。たとえば、RAM システムが 256M バイトで、スワップを 512M バイトに設定する場合、「+ 512」のように指定します。
10. 「**Create (作成)**」をクリックして、新しいパーティションを作成します。ディスクの残り部分を含む新しいパーティションが構成されます。「**Mount Point (マウントポイント)**」を /usr に設定します。
11. 「**次へ**」をクリックして、パーティションテーブルを保存し、「**Installation Settings (インストールの設定)**」画面に戻ります。